

## 金融商品の選び方・金融商品広告の注意点<第2回>

# 投資信託と変額年金保険 投資をするリスク、しないリスク

貯蓄と運用、  
利回りが生活を変えるかも

最近の貯金の利息は少ないですよね。定期預金の利息なんてゼロと同じだよ、こう感じている方が多いと思います。二〇年ほど前まで遡って利息を比較してみました。

一〇〇〇万円の定期預金の利息は、
昔 毎年 六〇万円
今 毎年 三万円

複利計算と言うのはご存じだと思います。単純に一〇〇〇万円のお金を利回り三%で運用すれば一五年後、およそ一五倍の一五〇〇万円になっているというのが複利計算です。しかしここで、「貯金を複利で運用しながら取り崩してい



竹本 隆之

ライブリッド・プランニング代表

【たけもと たかゆき】独立系FP「ファイナンシャルプランナーに相談.com」を開設。会社員と主婦を対象に、ライフプランの相談や「人生とお金・人生の質」についてセミナー。老後設計・投資信託・相続分野に強い。物理系エンジニアでもある。

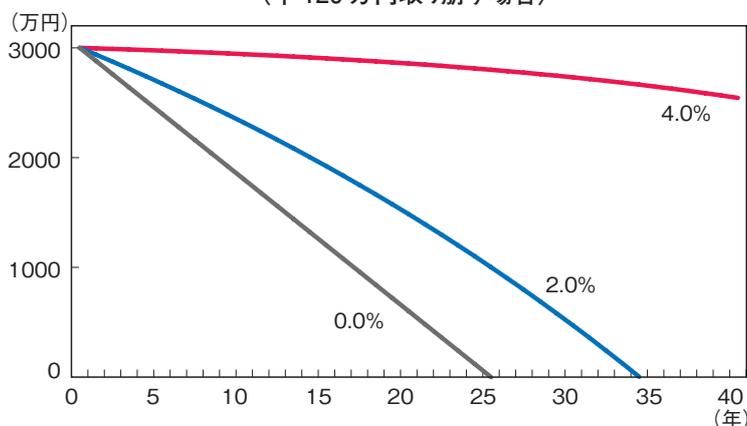
く」という話しになるといかがでしょうか？

例えば六〇歳から一五年間は一銭も使わずに運用で殖やして、七五歳から使い始めるなどというライフプランは現実的ではありません。ですから計画的に取り崩しつつ、しっかりと運用する。これをグラフにしてみようと思います。

毎月一〇万円、年間にして一二〇万円を取り崩すとします。月一〇万円は大きいですよ。例えば退職金とそれまでの貯金で三〇〇〇万円あったとして、この取り崩しを運用する場合としない場合を比較したのが図表1です。

運用しなければ利息はありませんから、単純に計算できますが、二五年で残高ゼロになります。しかし、二%で運用できれば三四年で残高ゼロ。五%で運用できれば四〇年後でも二五〇〇万円の残高が

図表1 貯蓄と運用金利  
(年120万円取り崩す場合)



図表2

投資対象の種類と収益

種類 = 債券・株式・不動産・貴金属など  
収益 = インカムとキャピタル

図表3

ワンルームマンション投資での  
キャピタルゲインとインカムゲイン

資産価値 1000万円 → 1年後 1100万円

キャピタルゲイン 100万円

賃料 10万×12ヶ月 → 120万円

インカムゲイン 120万円

残っていることとなります。

投資対象の種類とその収益

二%で運用とか五%で運用と簡単に言いましたが、では何で運用したらいいのでしょうか。定期預金ではもはや無理ですから、何かに投資しなければなりません。

今回は投資信託と変額年金保険のお話ですが、その前に一般的な運用のお話をします。投資対象にはいろいろな種類があつて、代表的なものには、「債券・株式・不動産・貴金属」があります。も

もちろん他にもあるのですがとりあえずこの四種類だけは覚えておいてください。

これらを運用して得られる収益にはどんなものがあるでしょうか？ 二つあります。「インカムゲインとキャピタルゲイン」です。インカムゲインとは資産を持つことで得られる収益のことで、キャピタルゲインとは資産そのものの価値が上がる収益のこと、つまり含み益のことです。

図表2に投資対象の種類・収益の種類をまとめました。不動産が最も直感的に理解しやすいと

思いますので、これで説明します。

ワンルームマンションを一〇〇〇万円で購入したとします。賃料は毎月一〇万円です。一年後、マンション価値は一〇〇〇万円になりました。(図表3)

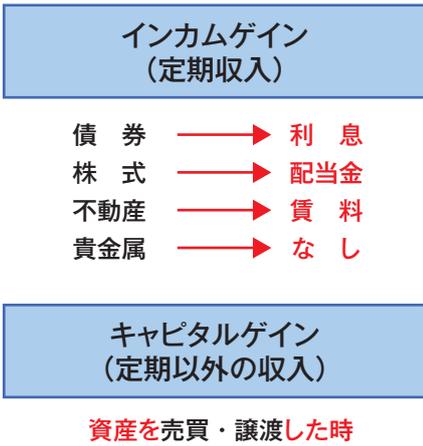
このような場合には、価値の上がつた分がキャピタルゲイン、毎月の賃料がインカムゲインです。ここで大切なのは、手にした収益はインカムゲインの方だけと言うことに注意してください。キャピタルゲインはその資産を売ったときにしか得られないのです。

この例ではマンションの価値が上がる例でしたが、でも最近では地価が下がっていますね。一年後のマンション価値が一二〇万円下がったとします。賃料一年分の収益が一二〇万円あったとしますと、インカムとキャピタルの合計で見れば差し引きゼロです。差し引きはゼロなのですがでも手元には一二〇万円の現金がある、こういう点にも注意してください。

不動産以外のものを見てみます。債券と株式これも投資対象としてはとても重要なものです。債券は国債が代表格ですし、地方債や政府機関債・企業債などがありますが、一言で債券を言い表せば借用書のことになります。金利いくらでこれだけの期間貸してくださいという借用書、この借用書が売買されるといものが債券です。

株式は企業発行です。お金を出資して

## インカムゲインとキャピタルゲイン



それを株式として受け取ります。この株式には超大手企業から小さい企業までさまざまなものがありますね。また日本だけでなく当然ながら海外のものもあります。

これら債券や株式は、そのものの価値が上がったり下がったりして、もし上がればキャピタルゲインですし、利息や配当金がインカムゲインとなります。

貴金属への投資、この代表は金・銀・プラチナですが、これらは持っているだけでは収益を生み出しません。つまりインカムゲインはありません。しかし、資産価値は上がった下がったりします。その売買で収益が出ればそれが譲渡益というキャピタルゲインとなります。不景気の時代には資産を守るといふ観点から、不動産などよりもこのような貴金属に人氣が集まることが多いようです。

では、インカムとキャピタル、実際に生活が充実するのはどちらでしょう？

資産を殖やすという観点からは、インカムとキャピタルの両方で見なければいけませんし、手元に残るお金を重視するならば、インカムの方を重点的に見る必要があります。どちらをどう重要視するかということは投資を考える際にはとても重要です。

### 運用商品としての投資信託

さて、いよいよ投資信託のお話しです。先ほど投資対象には債券・株式・不動産・貴金属いろいろなものがありますよと書きましたが、これらを適宜まとめたものが投資信託です。過去の実績を見てみますと、一年で二割アップ三割アップ、こんな投資信託もたくさん存在します。

投資信託には、株式の割合・債券の割合・どんな国かどんな企業か、少しずつ割合を変えたり対象を変えたりして非常に多くの種類があります。まず、お金の流れから見た説明を図表4に示しました。投資家がお金を出し、それを集めて、運用会社がそれを複数の投資先に投資する、投資家一人では大きな額でなくとも集まれば十億円、百億円になりいろいろな投資先を選ぶことが出来ます。そして配当や利息という収益を分配金として逆の流れで分配する、これが投資信託です。

具体的な投資信託の例を挙げます。

#### 投資対象

- ・日本の優良企業の株式
- ・海外の新興企業の株式
- ・国内政府系機関の債券
- ・海外の国債

投資信託というのは、

「あなたの代わりに運用してあげますよ。私はプロですからあなたより上手く運用できますよ」

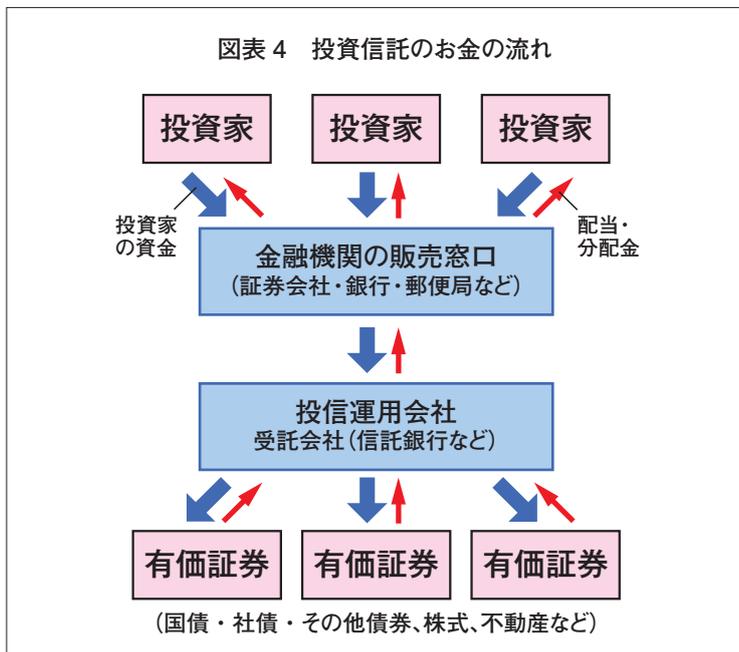
と云ってお金を託するものです。投資を信じて託するから投資信託です。でもそれが本当に上手く運用できるかどうかは保証されていません。これがリスクです。投資信託には必ず「目論見書」というものがあります。そこには集めたお金をどんなものに投資するかが書かれています。どんなリスクがあるかも書かれています。個人の投資家は、これを見て判断しなくてはなりません。

「目論見書なんて難しいことばかり書いてるので見てませんよ」

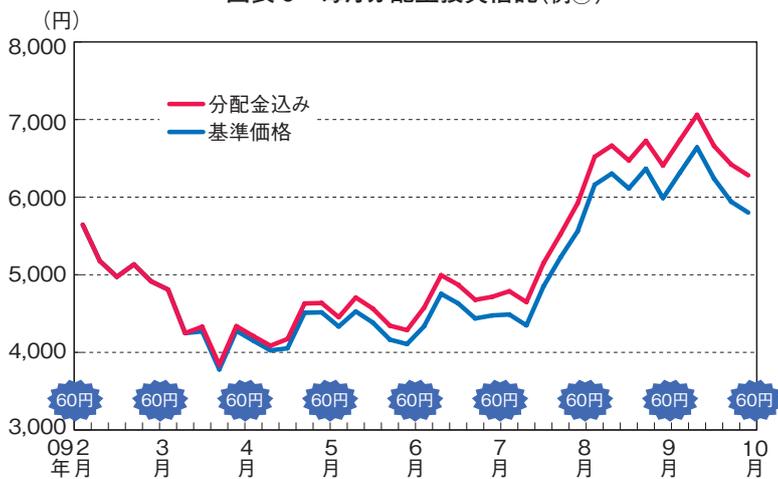
こう公言される方も結構いらっしゃるのですが必ず見てください。なぜなら、リスクを取ったのはあなたであって運用会社ではないからです。

一方で手数料、これも目論見書の中に出てきます。こちらは運用が上手く行っても行かなくても、運用成績の如何にか

図表4 投資信託のお金の流れ



図表5 毎月分配型投資信託(例①)



**投資信託の具体例**

図表5に今とても人気のある投資信託の例を示しました。毎月決まった日に分配金が出る投資信託を毎月分配型投資信託と呼んでいます、ここでは毎月

かわらずしつかり徴収されます。悪く言うと投資信託は販売業者や運用会社がりスクを取らずに手数料だけはしつかり取るシステムになっている、とも言うことができます。

六〇円の分配金を出している、そんな投資信託の例であります。

例えば二月にこれを購入したとして、青い線は基準価格を、赤い線は分配金込みの価格を示しています。すなわちキャピタルで見たのが青い線で、キャピタル十インカムで見たのが赤い線となります。二月に基準価格五〇〇〇円で買ってすぐに四〇〇〇円まで下がりましたがその後上昇して直近では六〇〇〇円弱、分配金との合計だと六四〇〇円。一年経たない間に約二八%の利回りで運用できている

ことになります。

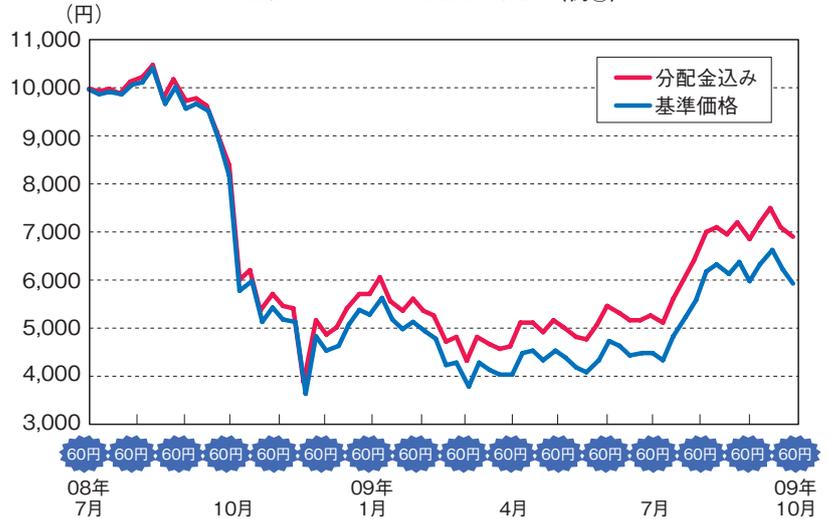
では次に次ページの図表6と図表7を見てください。図表6は昨年七月に基準価格一〇〇〇〇円で買って今は六〇〇〇円、分配金込みで見ても七〇〇〇円です。運用損失はマイナス三〇%、大損です。

図表7はどうでしょう。二〇〇五年三月購入で、毎月分配金を貰っている期間が長いですから期間が経つほど赤線と青線の差は広がっています。やはり基準価格一〇〇〇〇円で買って二年間はずっと運用成績が良かったのですが、二〇〇八年九月頃、そうリーマンショックのあった頃に、購入価格の一〇〇〇〇円を割り込んでいます、つまり含み損の出た状態ですね、そして今ようやく損得ゼロに近づいてきました、こういう投資信託です。もうお気づきでしょうか？ この図表5〜7は同じ商品で、単純に期間を変えてグラフにしただけのものです。

図表5の時に買えば二割三割アップの運用が可能です。一方で図表6の時ならばマイナス三〇%で大損、そしてまた、図表7のように単に長く持っているから良いというものでもありません。これが投資信託です。

経験の浅い方は期待できる収益の判断は難しいと思います。だからどうしても過去の実績で判断しがちです。でも、「上がりすぎたものは必ず下がる・振り子は元に戻る」ということ、そして、過去の

図表6 毎月分配型投資信託(例②)



図表7 毎月分配型投資信託(例③)



実績はあくまでも過去のことであるという  
こと、これを忘れずに検討して頂きたい  
と思います。

**投資信託の手数料**

投資信託には「買う時・持っている間・  
売る時」それぞれに三つの手数料がかか  
ります。販売手数料(〇〇〜三%)、信託  
報酬(年一〜二%)、解約財産留保額(〇  
〇・六%)と呼んでいることが多いと思

います。販売手数料が安い代わりに信託  
報酬が高いものやその逆のもの、すべて  
が高いもの、すべてが安いもの、いろい  
ろあります。

例えば、販売手数料が三%で、信託  
報酬が二%、解約財産留保額が〇%の  
投資信託ならば、手数料を合わせて一年  
間なら五%以上、二年間なら七%以上の  
収益が上がる投資対象でなければ購入者  
にとって収益が出ない、というように考  
えてください。

買う時・持っている間・売る時、それ  
ぞれに手数料があると言いましたが、こ  
のうち、持っている間の手数料である信  
託報酬、これは目に見えませんが。日々  
の基準価格に含まれています。どうい  
う事かと言いますと、日割計算でその手  
数料分のコストが差し引かれて基準価  
格になっているのです。これは、例え  
ば利回り三%の外国債券に投資する  
投資信託があったとしたら、最終的に  
その三%から信託報酬分の二%を引か  
れて、手取りは一%になるような結果  
になるということです。それだったら自  
分でこの外国債券を買う方が良さそ  
うなものです。 「信じて託して」、  
いろいろな国や機関の債券を買って  
リスクを減らし、かつ、簡単に売  
りできる、この手数料が掛かっています  
よということになります。

**変額年金保険**

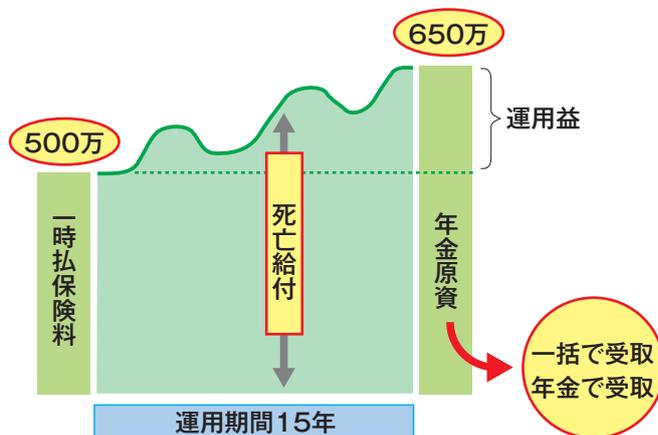
年金保険と投資信託を組み合わせた金  
融商品、それが変額年金保険です。一時  
払いと月払いがありますが、一時払い  
の例で説明します。

まず図表8を見てください。五〇〇万  
円を一時払いで払い込みます。運用期  
間は五年です。五年後の運用成果を年  
金の原資として一括受取でも良いし年  
金として分割して受け取ることも出来  
る、こういうものです。図では六五〇万  
円

図表 8

△△変額年金保険

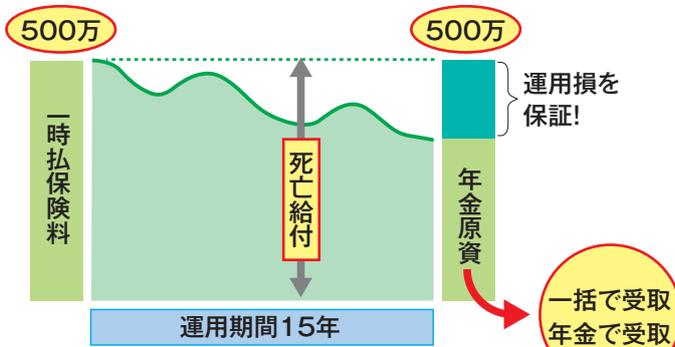
運用実績により年金原資がアップ



図表 9

△△変額年金保険

保険金額の100%保証!



で増えていますね、でもこれはあくまでも例えの話です、一五年後の運用結果が保証されている訳ではありません。次に図表9を見てください。投資信託が関係していますので運用が悪ければ損をします、と言いたいところですが、この商品は一五年後の運用が悪くても払込金額分は保証されています。こういう商品に興味ありますか? 「五〇〇万円払って五〇〇万円貰うって当たり前」と思うか、「運用が上手くいかなくても保証されている」と思うかで評価が分かれると思います。

図表8と図表9は、同じ商品で、チャシなどを見ると、図表8は大きく表示され、図表9は小さく表示されていることが多いように思います。なぜ保険という名前が付いているのかと言いますと、万が一契約者が死亡した時には、運用成績が良ければその結果が、もし成績が悪くても払込額と同額の死亡給付金が支払われます。ここが保険の部分です。でもどちらかというと、この商品は保険商品とは言いつつ運用商品の性格の方が強いものだと思います。変額年金保険にはさまざまなタイプの

ものがあります。運用時の債券や株式の割合も様々ですし、最低保障が大きいものや、運用成績が良い場合には最低保証額が増加していくもの、基本年金額と増加年金とを明確に分けて保証する部分を明示しているもの、外貨建てで保証しているもの、などなどいろいろな種類があります。ですから購入に当たってはどのような商品で何が保証されているのか、しっかりと確認して頂きたいと思います。

変額年金保険の手数料

変額年金保険自体にいろいろなタイプがあることから、その手数料にもいろいろなタイプがあります。しかし、これは基本は投資信託と同じです。「買う時・運用期間中・受け取る時」

です。通常、先に保険料を徴収するものが多いと思います。先の例ですと、一時払金五〇〇万円の中から、一五年間の死亡率から算出される保険料を差し引きます、二%とか三%とかです、額にするとい〇万円ほどですね。残りの四九〇万円ほどを原資に一五年間の運用を始めるわけですが、この間も毎年手数料がかかります。これは運用関係費用と呼ばれ、〇・二%とか〇・七%とかです。

受取時の手数料は、中途解約を除けば、受取には満期時受取と死亡時受取の二つ

